



26市初!

i P a d 450 台を小学校3年生全員に貸与します

～学力のさらなる向上を目指して～

福生市教育委員会では、平成 29 年度から個別学習用ドリルソフト（やるk e y）を搭載したタブレット端末（i P a d）を市立小学校3年生全員に貸与し、授業や家庭での個別学習に活用することで基礎学力の定着や学力の向上を図ります。

平成 29 年度からの取り組み

【概要】 タブレット端末の貸与
 【対象】 市立小学校第3学年全員・教員
 【貸与機器】 i P a d 450 台（セルラーモデル）
 【主な使用教科】 算数
 【実施時期】 平成 29 年9月から（予定）
 【予算規模】 13,000 千円（平成 29 年度）

期待される効果

- ◎学習意欲の向上
- ◎個人の実態に応じた個別学習の実現
- ◎家庭学習状況の可視化による指導の充実

今後の展開

産官学協働研究による成果を踏まえ、「やるk e y」を活用した学習を継続するとともに、タブレット端末の特長を生かした授業（インターネットを活用した調べ学習やカメラ機能を活用した体育等、他のドリル教材の活用）を進めることで、更なる学力向上を目指します。

また平成 28 年3月に策定した福生市立学校 ICT 推進計画に基づき、今後計画的に学校の I C T 環境の整備を推進します。

◎タブレット端末は、家庭環境に影響されずに、家庭学習を行うためのツールとしての役割が期待されている。

◎算数は成果が数字に表れ、達成感の得られる教科であり、算数・数学の基礎基本のほとんどが小学校4年生までに集約されていると考え、算数のつまずきが、その後の算数、数学の習得を困難にするため小学校3年生の算数でタブレット端末を活用が効果的である。

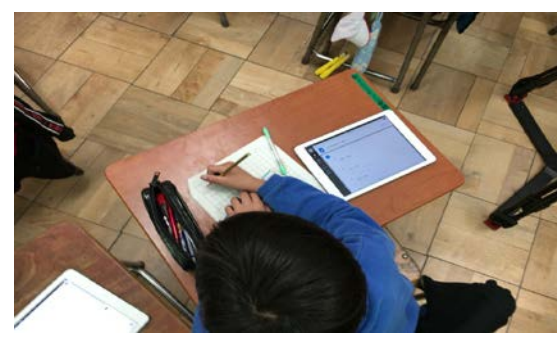
活用の様子



△児童の学習状況を確認する担任教諭



△児童の実態を把握し問題意識を共有



△筆算用紙を併用し、効果的に学習する児童

福生市での産官学協働研究

平成 27 年度から学力向上を目標に、慶應義塾大学、凸版印刷株式会社、福生市教育委員会の3者が産官学のチームを組み、教育経済学の視点に基づく施策展開の有効性について、特に家庭学習におけるタブレットを用いた学習が学力に与える影響の効果検証を実施しました。

○調査研究全体のコーディネート
 ○iPadの提供
 ○「やるKey」実証研

得られた成果（中間報告）

| | |
|-----------|------------------|
| 学力テストへの効果 | 偏差値 1.6 ポイント上昇した |
| 家庭学習の効果 | 15 分延伸した |
| 学習目標効果 | 「より評価を得たい」傾向が強い |

タブレット端末を用いた小学校3年生における算数での個別学習を通し、端末の持ち帰り等による「やるk e y」の利用が、基礎学力が異なる児童それぞれが自分にあった学習をする機会を増やすことができ、習熟度改善に高い効果を発揮する。

*「やるk e y」とは児童のセルフコントロール力の向上をサポートし、これからの日本を支える人材の育成に貢献することを旨とし、教科書準拠の学習システム